

平成29年度家庭教育「学びカフェ」推進事業検討会議（第1回） 議 事 概 要

1 会議の概要

- (1) 日 時 平成29年7月24日(月) 10:00~11:30
- (2) 場 所 北海道庁別館9階教育庁会議室
- (3) 出席者 検討会議構成員：7名、事務局：4名（別紙のとおり）
- (4) 次 第
 - ア 開会
 - イ 挨拶 北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課主幹 松 井 晃 之
 - ウ 説明 (ア) 家庭教育ナビゲーターハンドブックについて
(イ) 平成28年度家庭教育「学びカフェ」推進事業について
(ウ) 平成29年度家庭教育「学びカフェ」推進事業について
(エ) 家庭教育「学びカフェ」推進事業検討会議の年間スケジュールについて
 - エ 議事 家庭教育「学びカフェ」推進事業の展開について
 - オ 閉会

2 発言要旨

【平成28年度家庭教育「学びカフェ」推進事業について】

- 活動回数については、ナビゲーターになっていただいている方は、既に活動されていて、それが数字に上がってきている部分も多いという気がするので、そこから発展させていくのが、大変なのではないかと思う。
- ナビゲーターのアンケート結果を見ると、聞き役になったとか、悩みを聞いたということで、意識してたくさんやっていくことが大事だと思った。わざわざFAXで送るほどではない当たり前のことだと思う人もいれば、細かいことも書いていいと思って書く人もいる。聞き役に回ったり、スーパーなどでの情報交換など、ちょっとしたことでもナビゲーターだから意識してやっていこうという意識付けが大事かと思う。
- 属性にPTA関係者とあるが、実際はPTAに話をするのは難しい。全然相手にされなかったり、自分たちはすでにやっていると言ってなかなか取り合ってもらえないこともある。
- 配付する案内も、わかりやすすくないといけない。やっていくことの目的や認定証の活用方法が分からないと、面白そうだと思っても、だから何なのとなってしまう。私のところでは、最後30分くらい活動のシュミレーションを行っている。サイコロを転がし、出た内容について話をするというもので、活動を難しく考えている人もいるが、シミュレーションにより、ただ話を聞き、話せば良いと分かってもらえる。
- 研修に来る人は、すでに色々なところに顔を出し、色々なものに参加している人が多い。新しく始める人がほしいところ。
- 壮瞥町の学びカフェは3年目になる。以前にあった親力つむぎ事業の中で、チーム員を作っており、その方たちを中心に実施している。今事務局からもあったが、私たちも行政でこういうことを地域の保護者の皆さんに提供したいと言うのではなく、あくまでもナビゲーターの人たちが、地域の課題だったり、お父さんお母さんたちがこういうことを知りたがっているものを持ち寄っていただいて、年に2つ3つくらいのイベント的な事業を展開している。今年の実業は8

月5日にあるが、ネットについてやりたいということだったが、それは既に色々な所で実施しているの、子どもに対してではなく、親にネットやスマホとの関わり方について知ってもらう方が良いのではないかと、子どもとちゃんと会話をしているか、という話である。子どもが話しかけているのに親はスマホを見ながらというパターンが多く見受けられ、地域の保護者の方に対し危機感を持っていることから、親子のコミュニケーションの会話力を高めませんかということで、8月5日に地域の保護者の方を集めてやってみようかと思っている。それだけでは面白くないので、恵庭さんみたいに、ある程度色々な人たちに集まってもらえるような工夫もしている。今年は2回くらいやろうと思っている。

- 体育施設の指定管理をしていることから、体育の日にフリーマーケットやハンドマッサージ、テーピングを行っている。けっこうな人で、どうやって周知したんですか、という話もあったが、去年は330人集まり、食物屋さんも用意したかったが、保健所との兼ね合いで難しかった。バザーのように、予約した人に渡す、という形であったら、保健所に申請がいらないので、そういうやり方をした。食べ物をつけると朝から夕方までけっこういてくれた。食べ物がなくてお昼に帰ってしまうので。食べ物を置くということで、滞在時間が長くなった。また、そこから少しずつ波及して、ハンドマッサージの日や、ネイルの日など、大人が集まって子どもの話をしながら親が楽しむというような活動も、私たちが仕掛けなくても発生してきていると思っている。来月、中学校と高校の先生方の3年次研修を受け入れるが、コミュニケーションを高めるということで、自分のスポーツクラブでは、子どものプールの待ち時間に親とその先生が話をできるようにしている。先生方が地域に入ることにより、何か起きたときに助けてもらえる。学校だけにいるとなかなか話ができないが、外に出る機会を作って子育ての話などができる場づくりが必要だ。
- 今年で11回目になるが、子どもたちの木育というところから始まっている匠まつりを、栗山町では行っている。ゲームコーナーも全て木で手づくりなので、木に触ってもらいたい、木で物を作ってもらいたいということで、続ける力、主体性や協調性を養ってもらうためのお祭りである。1日中外で親子やおじいちゃんと孫で参加してもらい、平成28年度は1,200人が来場した。リピーターも多いが、地方紙に掲載していただいたことから、江別市からの来場者が多かった。そこから口コミで広がり、江別と札幌で来場者の7割、残りの3割が近隣の市町村という割合になっている。栗山町のために行っているはずなのに、違う方向に走っている感じはあるが、町おこしも兼ねている。ゲームもプールも金魚すくいも全て10円と低価格で、景品も当たる。大変なこともたくさんあって、子どもと親と一緒に遊んでほしいのに、お母さんだけでかたまり、子どもは1人で遊んでいるため、思い通りにいかないこともある。でもそこは反対に、お母さんたちの気の休まる場所になっていればいいかなと思っています。今年は8月5日行いが、10時から15時まで、駐車場も300台分ある。
- ナビゲーターを支援員として活動している。町から委託を受けてやっているセンターが10周年を迎え、先週大きなイベントを実施した。出生数がいますごく減っており、年間50人いくらかいかないくらいまで少子化しているが、団体主催で、後援として子育て支援室の方にお手伝いに入ってもらった。なんと250名も集まって、久しぶりに2時間くらいの大きなイベントを行った。食べ物をいれるとどうなるかわからなかったの、午前中みの開催とした。イベント的で、見るものが多いが、10年経って大きくなったお子さん親子や、10年前に子育てしていた方、地域の方が来たりと、色々な方と再会した。PR面では、地方紙の苫小牧民報さん、室蘭民報さんが、取材に来てくださったので、他の市町村に引っ越していった人たちが来てくれた効果もあった。私たちの団体で自由に考えて、それをサポートしてくださったのが支援室の人たちで、このようなイベントは、支援室(=行政)だけだとなかなか難しいが、センターと行政が協力することで今回上手くできたので、支援室の方と良かったと話した。10年前子育てしていた人たちが支援される側からする側になっていたなど、良いイベントだったと思う。

【(ウ) 平成29年度家庭教育「学びカフェ」推進事業について】

【(エ) 家庭教育「学びカフェ」推進事業検討会議の年間スケジュールについて】

- 先日オホーツクと釧路に出張し、市町村教育委員会の職員の意見を色々伺ってきた。その中で、例えばナビゲーターハンドブックを作ってそれで終わりでは寂しすぎる、ナビゲーターを養成してそれで終わりでは寂しすぎる、継続してほしい、という意見がかなりあった。
- ナビゲーターになっている、意識のある人たちとどうつながっていくか。研修を受けるだけではなく、認定証があるというのは、すごくつながりを感じるのではないか。
- 「学んだ証」みたいな感じだ。住民主体にちょっとずつ変わってきている気がする。行政が前に出ていくのではなく、住民をバックアップして、色んなところで頑張っている地域の方を応援する形に行政側が変わってきていると思う。その方が、角がとれて、住民目線で作れて、更に良いのでは。ただ、先ほどの恵庭の事例から、主催は教育委員会で、必ず実行委員会というのがあるが、これが実行委員会が主体的に行うことになっていけばいい。
- ずっと同じことをやっているのに、「学びカフェ」など、言葉が変わっており、同じものだと思えないので、どこかに同じ言葉が残っていれば継続した事業だと伝わってくるのにと。これまで、色んなサポーターやナビゲーターだとかの養成講座を行い、手伝っていただけの方はこれに書いて登録してください、とお願いしても何人かしか書いてくれなかったが、今回ナビゲーターの認定証があることで、「やらなきゃ」という意識が芽生えたと思う。帰って行くときも印象が違う。もうちょっと長く続けてくれればいいのにと。思う。
- 教育力向上推進会議の研修会がある。あそこにはある程度、要の人が集まるので、そういう集まったところに持っていくのがいい。今はどうしても障害のある子どもたちの部分がすごく件数が多くなっているが、家庭教育ってやっぱり大事だよなということで、今年度は決まっているが、来年度取り入れていければいいと思う。
- 市町村の教育委員会の立場としては、万が一この事業自体が3年で切られたとしても、養成されたナビゲーターさんは残るわけなので、その方たちを活かす仕組みを考えたらいいのではないかと思う。壮警の話をさっきさせていただいたが、親力つむぎ事業は保護者や子どもにとって良い事業だったので、それを残す形で継続した。ナビゲーターの仕組みが新しく始まるから続けたのではなく、それが良いから続けた。先ほど成果を事例集として作成したりPRするというあたりで、このナビゲーターはこうやって頑張ってるよ、こうやって保護者の方にプラスになってるよ、という事を訴えていくことで、それぞれの市町村でこの人たちを活かしていかなければならないねとなるだろうし、私の町では少なくともせっかく積み上げてきたことなので、3年で切るという風には考えていない。壮警町は人口が2600人なので、小回りもきき実行できるが、こういうスタンスが市町村教委だったり行政の立場としては大事なのかなと、今日皆さんのお話を聞いて思った。
- オホーツク管内と釧路管内を見ても、取り組んでいる市町村と取り組めていない市町村の差が大きいと感じた。家庭教育は課題なんだということで、取り組んでいるところはけっこう進んでいるが、取り組めていないところは例えば、PTAの研修会が家庭教育なので、それでOKとか、保健福祉分野におまかせしてしまっているというようなところが、けっこうある。何故できないんですか、という話になったら、職員も少ないし、なかなかそういうノウハウも持っていないので、という話をされた市町村もあった。家庭教育に関しては温度差がある。住んでいる方もどんどん変わっていくので、必要性は感じているようだが、なかなか家庭教育支援というところまで市町村教育委員会が追いついていないというのが現状のような感じがした。

【家庭教育「学びカフェ」推進事業の展開について】

- 学びカフェが生まれた、「様々な理由で学びの場に参加できない保護者に対してどう関われるのか」という課題に対しては、成果が上がっているのだろうか。今までのようなアプローチではなくて、集まりやすい場、敷居が低い、みんなが集まりやすい、自分にとってメリットのある場に行きまわると、悩みが話されたりするので、本当に困っている人たちとどうつながっていくのかというところが、どうなのかなと改めて思った。たぶんイベントに出てこられる方は、同じような意識を持つ熱心な方だと思う。でも私たちが対応していきかけたのは、そういう場に行きにくい人たちで、出て行ったらまた批判されるに違いないとか、うちの子また問題起こしたからそういう場に行ったら何か言われる、と思っている人たちとどうつながれるかということだったと思うので、そこに対しての成果はどうなのだろうと改めて考えると気になった。
- 今、色々な企業でも、コミュニケーション能力をすごく重視しており、コミュニケーションの力をつける取組を行っている会社もある。半年間、色々な企業の人たちと、ひとつのサークルに入れて、話し合う形。それでコミュニケーション能力をつけるという会社も出てきている。色々なところを視察して、昨年のコミュニケーション能力のつけ方はすごく勉強になった。サポート企業に入っているの、そこにナビゲーターが入ってきて実際に取組を行ってくれれば、会社も上手く回るんじゃないかなと思う。会社が回ると、色々な企業もあるので、どんどん膨らませていけるのと思っているが、来てもらうにはたくさんお金がかかったり、じゃあどういふときに来てもらう等、たくさん考えることはあるが、行政立場の方から何か、ぽんと投げかけてくれて、例えば〇〇公民館でやるので来てください、ではなくて、企業側に入ってきてくれると一番いいのにと、そんな感覚は企業として感じた。
- 最近は、お父さんからの相談も多くて、奥さんが子どもに対して言っていること、やっていることに、ちょっと異論があるがどうしたらいいと思いますか、というような相談がある。奥さんもイベントなどに参加してみるといいと思いますよ、と言うと、言っても出ていかないんだよね、と言う。お母さんに対するイベントが多くて、父親の参加できるイベントも必要なのかなと思います。家庭でお父さんもどんどん言ってくださいよ、と言うが、奥さんに言うと怒るんだよね、なかなか上手くいかない、というお父さんからの相談が立て続けに3人くらいあったので、お父さんも引っ張り出せないかなと思う。
- お父さんがメイン、と全面に出してしまうと、来ないと思う。お父さんの出番を作る、お父さんの出来ることをやる教室を、パソコンが得意な男の人が多かったり、大工が得意な人が多かったり、そういう場にお父さんと呼んで、楽しんでということになればお父さんは出てきてくれる。得意分野で出番を作るのが大事。